事例No.	2354
公表年度	R5
団体の属性	その他
団体名	ゆりのき台地域活動協議会

事例区分	地域活性化

タグ	・地域運営組織 ・福祉・介護 ・教育・子育て

事例種類	地域運営組織

事例内容・タイトル

地域運営組織の持続的な運営に向けた
取組（ゆりのき台地域活動協議会）

出典

地域運営組織の持続的な運営に向けた取組事例集

ゆりのき台地域活動協議会①

【概要】

立地自治体		兵庫県三田市	人口規模	約10,800人
設立年度		平成27年度	活動エリア	小学校区と概ね一致する
構成団体	構成団体	自治会 地域活動団体 市民活動団体 事業者 教育・福祉等	法人格の有無	無
			体制	役員とは別の事務局体制を確保
			詳細 役員	9名（うち非常勤・無償4名）
			詳細 役員以外	4名（うち常勤・有償4名）
	協力団体	教育・福祉等、行政、個人等	ホームページなど	http://yurinoki.club/ Instagram　@yurichika0511

【具体的な活動内容】

【高齢者の生活支援】

- 配偶者が亡くなり、庭の手入れが困難な高齢世帯に対して、「ゆりのき生活サポート倶楽部（ゆりサポ）」を立ち上げ、剪定や草刈りなどの生活支援を実施しており、利用者が増えている。

【生涯学習・健康づくり】

- フリー広場では「折り紙教室」や「編み物教室」を開催しており、7種類のコミュニティカフェを運営している。
- 高齢者向けの「百歳体操」は、参加人数が増えてきたので開催回数を増やし、若い世代向けには「リフレッシュ体操カフェ」を開催している。



フリー広場（折り紙、編み物）

出典：ゆりのき台地域活動協議会　資料

【子ども支援・子育て支援】

■ゆりっこ広場・ゆうゆうクラブ

- 児童数1,000人を超える大規模校であるゆりのき台小学校に通う全ての子どもが、様々な体験を通じて多様な人や価値観と出会い、自分で考え行動ができるよう、地域ボランティアによる小学生の居場所づくりを週2回、第3日曜に行っている。



ゆうゆうクラブ

■夏休み期間の子どもの居場所づくり

- 夏休み期間の平日に、地域の方や学生などがスタッフとして勉強や遊びを見守りサポートする居場所づくりを実施しており、21日間で延べ630人（R5）を預かったところ。

ゆりのき台地域活動協議会②

09

【地域計画（ビジョン）の策定・見直しに向けた取組事例】

取り組み	住民タウンミーティングの開催を通じた「中長期計画」の作成と活動の企画立案
経緯・狙い	• ゆりのき台は、住民の年代の偏りを減らすために三期に分けて分譲されたことから、1～3丁目は高齢世帯が多く、4～6丁目は子育て世代が多くなっており、世代によって異なる住民ニーズを考慮することが必要な地域となっている。 • 様々な活動がされてきたが、これまで中長期的なビジョンがなかったことから、役員交代に伴って活動が立ち消えになってしまうこともあった。そこで1年間をかけて「中期活動計画」を作成することになった。
取組の概要	• ニュータウンであるゆりのき台では、隣近所の方の顔がわからないということも珍しいことではなく、災害や事故、急病の際、互いに声をかけて支え合えるように「顔が見える関係づくり」が重要であると考え、タウンミーティングを開催し、理事だけでなく地域住民の方と課題を共有しながら、3～5年間の中長期的な計画を作成した。 • タウンミーティングは、世代共通の課題として環境（ごみ問題）や防犯をテーマとして、それぞれ2～3回、月1回のペースで開催した。 • 当初は、高齢者の参加が多いと想定していたが、若い世代の参加もみられた。 • 共働き・子育て世帯などは、回覧板を十分見られずに行政についての情報が不足しがちであるが、全世帯にポスティングしている広報紙（フリーペーパー、イベントの告知やボランティア募集に活用）等を通じて参加者を募ったところ、いろいろな立場の方が参加して大いに議論が盛り上がった。  出典：ゆりのき台地域活動協議会　資料
成果	• 環境をテーマとしたタウンミーティングでは、地域内を流れる平谷川の桜並木の病気や、県や市による河川管理の限界などの問題意識を参加者で共有することができた。また、せっかくの自然環境が活かされていないことから、「平谷川を楽しもうプロジェクト」を立ち上げ、市内にある「兵庫県立人と自然の博物館」の研究者の協力も得ながら、イベントやフィールドワークの開催につながった。 • SNSを活用して理事会メンバーの日ごろの情報共有や対話を活発にしたことで、月1回の理事会での検討や方針の決定を迅速に行うことができるようになり、広報誌への記事掲載もスムーズに行えるようになった。
今後 取組みたいこと	• ゆりのき台の地域活動については、国の子どもの居場所づくり事業がきっかけとなり、学校やPTA、地域が連携することでスタートし、教育や福祉への関心が高い保護者も多く、コミュニティスクールの活動も活発である。最近では、関西学院大学のボランティアグループと連携したイベントを開催したり、地元企業へのスポンサー募集を計画するなど、「できる時にできることを無理なく楽しく」をモットーに、今後も幅広い層で運営していきたい。